

建築計画委員会活動報告

2010年度～2012年度

大会研究協議会

■2010年度

「利用」の時代の建築学へ

—建築計画にとって何が課題になり得るか？

■2011年度

利用の時代の災害復興計画

—東北地方太平洋沖地震の被災者のために何ができるか

■2012年度

利用の時代の歴史保全

—保存・再生・活用の立脚点を考える

大会研究協議会 2010年度(富山)

「利用」の時代の建築学へ

-建築計画にとって何が課題になり得るか？

■成果：注目される最新のストック利用の事例から

1. コミュニティカフェ、宅老所、シェア住居、院内助産所は、既存建築の転用が多く、主がいる。
2. 集落の空家を住みつなぐ感覚は幅広い支持を得る
3. 地方の街の再生は、既存建築の改修デザイン、企画力、経済性のバランスにより可能となる

■課題

持続性の観点から言語化を進める必要

大会研究協議会 2011年度(東京)

利用の時代の災害復興計画

-東北地方太平洋沖地震の被災者のために何ができるか

■成果：個人の立場から復興を考える視点

1. ストック利用の新たな取り組み：仮住まいの輪
2. 仮設住宅建設よりも人間関係の保持と継続
3. 縮小社会と向き合う目標像：一極集中からの脱却、
利用を評価する土地システム

■課題

これらの生活者のリアリティを復興計画にどう組み込めるか

大会研究協議会 2012年度(名古屋)

利用の時代の歴史保全

-保存・再生・活用の立脚点を考える

■成果

1. 建築を残すか否かの判断には、利用する人々にとっての価値を扱う建築計画の知見が必要
2. 建築の保全のための補助金は、その基準が一人歩きし、再検討が認められなくなる危険性をもつ
3. 作為性のない設計のためには、行政と専門家間の対等な関係という素地が必要
4. 文化財建築で盛んに取り組まれている活用策は、一般建築の保存活用の先導的役割を果たす

その他の大会研究集会

■2010年度テーマ

- ・PD: 創造都市時代における新しい公共空間の可能性
- ・懇談会: フィールドワークの未来形
— 建築的いとなみを再考する

■2011年度テーマ

- ・PD: 人口過疎地域の生活環境モデル
- ・懇談会: 建築計画研究の表現にみる今日の主題

■2012年度テーマ

- ・PD1: 震災後の生活環境再構築の現場と建築計画学
— ビジョンとバージョンをつなぐ
- ・PD2: 統合的視野からの建築計画学的実践

震災関連の活動

- 東日本大震災への取り組みに関する小委員会
主査・支部代表へのアンケート（2011年度）
- 震災関連計画系研究情報 WG（2011～）
- 住宅復興事例収集 WG（2012～）

東日本大震災への取り組みに関する 小委員会主査・支部代表へのアンケート

■ 目的

くらしを喪失した方々のため建築計画委員会として
小委員会がもつ知見を集約し情報発信する

2011年3月 復興過程についての意見と学術的知見の
集約作業を進める方針を定める

4月5日 震災への取り組みに関するアンケートの送付

4月19日 建築計画委員会：アンケート回答の報告

5月20日 アンケート回答の追加と修正

■ 結果の周知による情報共有と重複調査の回避

6月10日 震災関連計画系研究情報ホームページに掲載

8月23日 大会研究協議会「利用の時代の災害復興計画 —東北地方太平洋沖地震の被災者のために何ができるか」資料集に掲載

震災関連計画系研究情報 WG (1)

東日本大震災後に震災関連の建築計画学研究の推進を支援するために設置。情報交換・研究成果の蓄積・公開を目的とする。

■ホームページの開設と運営

<http://news-sv.aij.or.jp/keikaku/shinsai-infoWG.htm>

日本建築学会 → 委員会活動 → 常置調査研究委員会 → 建築計画委員会 → 震災関連計画系研究情報WG ホームページ

- **調査・研究の速報**（ダウンロード可報告書・資料11件）
各小委員会、東北支部建築計画専門委員会、個人研究者などによる速報類。
- **計画委員会からの提供情報**（ダウンロード可報告書・資料9件）
オーガナイズド・セッション報告、当WG公開拡大委員会報告、震災についての建築計画委員会活動報告、小委員会への研究アンケート結果など。
- **調査フォーマット**（ダウンロード可フォーマット2件）
- **統計・文献リスト**（ダウンロード可資料5件）
東日本大震災以前の既往日本建築学会計画系部門の文献リスト、東日本大震災関連の日本建築学会大会発表リスト、被災地統計データ、被害統計など。
- **その他参考資料**（ダウンロード可資料4件）

震災関連計画系研究情報 WG (2)

■ 公開拡大委員会

＜東日本大が震災について考え・行動する＞の開催

WGメンバーおよび有志により、多数の研究者が同時並行的に進行している計画系の研究情報を交換し、活動状況を報告しあい、議論を活発化することを目的とした拡大委員会を、公開研究会形式で行った。

- 第1回公開拡大委員会 「建築の専門家としての被災地支援活動の可能性と限界」（2011年12月17日）
- 第2回公開拡大委員会 「仮設住宅から復興へ」（2012年2月22日）
- 第3回公開拡大委員会 「既存ストックの活用」（2012年3月9日）

以上について、震災関連計画系研究情報WGホームページに報告を掲載した。

今後は提供した情報が各人の研究に生かされ、論文集等に成果が発表されていくことと考える。速報的・同時進行的な情報交換や研究支援から、成果の整理と蓄積に、活動がシフトしていくことになるだろう。

住宅復興事例収集 WG (2012～)

■ 目的

東日本大震災の住宅復興の過程について、すぐれた事例を収集し、資料として記録することを目的とする。

- ・住宅の復興に向けて進行中のプロジェクトのリストアップ。
- ・被災地の生活の実情からみた住宅復興の課題と対策を整理。
- ・それにより復興の記録として有用な資料集の作成。
- ・2013年大会PD資料集で成果の公開。
- ・以降も事例を取材，収集を継続。
- ・震災関連計画系研究情報WGとの連携をはかり、優れた取り組みを記録に残す。

運営委員会・小委員会の活動

住宅計画運営委員会

住宅計画小委員会

住宅地計画小委員会

高齢者・障がい者等居住小委員会

比較居住文化小委員会

地域居住小委員会

ライフスタイル小委員会

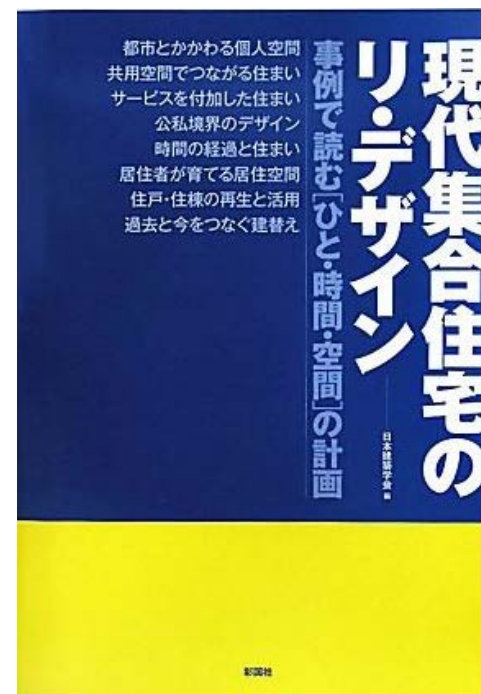
住宅計画小委員会

■ 2010-2012年度の主な活動

- 1) 調査研究のまとめと出版 (2010)
『現代集合住宅のリ・デザイン
— 事例で読む“ひと・時間・空間”の計画』
- 2) 東日本大震災の住宅復興等に関する研究
 - ①連続ワークショップ5回 (2010)
…住まいづくり支援会議と共同開催
 - ②宮城県被災地予備調査 (2011)
 - ③岩手県被災地調査 (2011)
- 3) 住宅系研究論文報告会の実施
 - ①第5回 (2010) 発表論文数34編、参加者68名
 - ②第6回 (2011) 発表論文数32編、参加者66名

■ 課題

- ・ 2010~11年度は、東日本大震災対応に注力した。
- ・ 2012年度以降は、震災対応を加速すると共に、
定常の活動も進める。



住宅地計画小委員会

■ 2010-2012年度の主な活動

1) 「巡業型活動」事例見学会+研究会

- : 既成住宅地の実態と経年変化の把握により、今日的な課題や可能性を検討
- : 住宅計画から地域計画まで幅広い専門家が結集し、多面的な評価・議論
- : 事例報告書の作成

- ・ TX沿線計画的住宅地（2010. 7. 18参加者16名）
- ・ ソウルの近代計画団地および現代集合住宅調査（2010. 10. 19-23参加者15名）

2) 東日本大震災復興支援研究

- : 仮設住宅地現況把握および災害復興公営住宅調査
 - ・ 現地調査（2011. 12. 12-16参加者17名）
 - ・ 研究委員会（2012. 3参加者17名+東北大姥浦先生）



高齢者・障がい者等居住小委員会(在宅ケア環境WG、高齢者居住WG)

- 目的 高齢者・障がい者等が地域で安心して住み続けられる、居住環境および生活支援のあり方に関する研究活動を行う。

■経過

2010年度・高齢者・障がい者の地域居住の現状と今後の課題に関する研究会を開催(7,9,12月)

- ・公開研究会「高齢者の地域における居住の安定確保に向けて課題と展望」開催(2月,参加者61名)

2011年度・東日本大震災における、高齢者・障がい者等の被害の実態について研究会を開催(7月,11月)

- ・公開研究会「東日本大震災における高齢者・障がい者の被災実態と居住復興の課題」開催(2月,参加者24名)



↑石巻市内の障がい者向け仮設住宅

- 成果
 - ・高齢者の地域居住を可能にするための課題を把握し、方向性を検討
 - ・東日本大震災における高齢者・障がい者等の被害の実態、課題を把握

- 課題
 - ・被災地の高齢者・障がい者等の居住、ケアの支援システムの検討に貢献する。研究成果を社会に向けて発信する。

比較居住文化小委員会

当小委員会は、激変する現代において居住文化を取り巻く状況をフィールドワークによって究明しています。

■2010年度の主な活動

- ・学会大会（北陸）建築計画部門研究懇談会
『フィールドワークの未来形ー建築的いとなみを再考する』
- ・拡大研究会
『建築的フィールドワークの実践と継承ーその習得と伝達のプロセス』
- ・拡大研究会
『なぜフィールドにむかったのかーフィールドワークのルーツと成果』

■2011年度の主な活動

- ・公開研究会『フィールドで／に何をやってはいけないのか』
- ・拡大研究会『カントリーサイドを選んで住む』
- ・刊行物
『フィールドワークに出かけよう！ー住まいと暮らしのフィールドワーク』

■成果と課題

フィールドワークを基にした研究事例の整理と集積、研究者相互の交流は達成できたが、webサイトによる情報発信がなされていない。



地域居住小委員会

2010.6

2010年度活動計画 1)大会OSの実施 2)研究交流会の企画立案

9

◆ **建築学会大会にてオーガナイズドセッション実施**
「居住地再生をめぐる社会的課題と創造性」

「取り組むべき中心テーマの抽出」

10

● 名古屋アートのまちづくり視察(5名参加)(あいちトリエンナーレ視察、錦二丁目まちの会所訪問、NPOまちの縁側育み隊との研究交流会開催)

・社会的課題から創造的思考への変換

12

● 墨田区向島まちづくり視察(11名参加)(NPO向島学会との研究交流会開催)

・地域マネジメントの方法論

2011.4

2011年度活動計画 1)被災地居住支援活動 2)地域居住の枠組み検討

2012.1

● 仙台市内復興まちづくり視察(16名参加)(被災地住民勉強会支援・復興住宅ワークショップ支援(荒浜地区、三本塚地区、あすと長町地区、ほか))
→見学レポート作成



仙台市内被災地における居住支援

2012.2

● 横浜黄金町まちづくり、防火帯建築視察(14名参加)(NPO黄金町エリアマネジメントセンター、NPOアーバンデザイン研究体との研究交流会開催)
→見学レポート作成

3

課題整理、次期小委員会へ ◆公開研究会の企画実施 ◆WG設置検討

ライフスタイル小委員会

■設置目的

- ・住宅建築は、そこに住む人々の生活のあり方に規定されていることから、生活者自身を知ることが重要である。そこで、個人や家族の生き方や生活のあり方に注目した研究活動をおこなうために、ライフスタイル小委員会を設置する。
- ・2年間に渡り、「少子高齢社会における家族のゆくえと住まいのこれからー共同・協働と住まい」をテーマに活動を進める。

■目標の達成度

- ・新規加入委員が中心となり研究課題についての報告を行うことで、委員会においてその目的・目標を共有することができた。また、項目1に関しても、コレクティブ住宅の見学会を実施し、今後の活動への布石とすることができた。
- ・テーマに沿って、震災により個人や家族の生き方、生活のあり方がどのように影響を受けたか、委員による研究発表、外部講師によるレクチャーを通して情報共有・討議を行い、今後の方向性を探る上で有用な知見を得ることができた。

■2010-2012年度の主な活動

1. 「コレクティブハウス大泉学園」見学会
2. UR「ハートアイランド新田」見学会
3. 岡崎愛子氏(ライフスタイル小委員会委員・住宅総合研究財団)
「私のコレクティブライフ(かんかん森での暮らしの体験より)」
4. 番場美恵子氏(ライフスタイル小委員会委員・昭和女子大学)
「別荘地から定住地に転換したシニアタウン
における高齢者の居住環境に関する研究」
定行まり子氏(ライフスタイル小委員会主査・日本女子大学)
「ドイツにおける子どもと住まい」
5. 宇杉和夫氏(ライフスタイル小委員会委員・日本大学)
「東日本国土復旧『東日本SCD・CA』地域居住コミュニティ帰還計画支援」
6. 富安亮輔氏(東京大学)
「コミュニティケア型仮設住宅の提案と実践～岩手県遠野市と釜石市～現地駐在の生活を通して」

施設計画運営委員会

医療施設小委員会

教育施設小委員会

地域施設計画小委員会

ワークプレイス小委員会

福祉施設小委員会

文化施設小委員会

医療施設小委員会

■設置目的

社会的ニーズへの対応に止まらず、医療政策・制度や医療関連技術の革新に従って年々変革が求められる医療施設の建築計画について、今日的テーマを設定し、それに従い研究者・実務者・関係者らと検討・提案を行う。

◇ 2010～11年度

2008年度から引き続き「人口過疎地域の保健・医療・福祉を担う中核的医療施設計画」を主題として、行政・施設・計画担当者を交えて検討を行った。

◇ 2012年度

「医療施設における安全・安心」を主題として、特に建築・設備計画的見地から幅広く議論を展開し、上記の問題点の抽出とあり方を提案を目指すための知見を得る。

■2010-2012年度の主な活動

- ・公開シンポジウム「人口過疎地域の保健・医療・福祉を担う施設計画のこれから」の企画・実施〈2010年度〉
- ・大会PD「人口過疎地域の生活環境モデル」の企画・実施〈2011年度〉
- ・施設見学会・勉強会の実施
 - /2010年度：岐阜、富山、青森
 - /2012年度：名古屋、沖縄、伊勢
- ・震災関連現地調査に協力〈2011年度〉
- ・2012年度は委員数13名で活動



▲ 2010年度岐阜での見学会で訪問した郡上市民病院の外来部待合



▲ 2012年度名古屋での見学・勉強会の様子

教育施設小委員会

■設置目的

- ・学校建築に関する研究及び設計事例について情報交換を行い、見学会の企画実施、研究会の開催、シンポジウムを通じて発信する。
- ・戦後学校建築計画に関して関係者へのインタビューや歴史的事例の視察を行い、記録を残す。



先進的学校建築における見学会の様子(写真は、広島県・府中学園)

■2010-2012年度の主な活動

- ・戦後の学校建築計画に関わった研究者、設計者、行政関係者などから、当時の様子や課題を体験を通して伺う研究会を6回にわたって開催した。そして、後生に伝える意味もこめて、これらの歴史的な価値ある情報をまとめ、書籍として出版する計画を進めている。
- ・近年、全国的に見られるようになってきた「小中一貫」の教育や学校に関し、2010年度以降シリーズ公開研究会として一般参加者ふくめ、3回にわたって議論を交わした。パネリストには、小中一貫教育を導入している自治体、学校の個々の背景や目的などを設計者、設置者、教育現場それぞれの側面からお話しいただき包括的は実態把握を試みた。
- ・毎年1～2回の学校を始めとする教育施設の見学会を実施している。

地域施設計画小委員会

■設置目的

地域の生活や活動を支える各種建物、そして都市から農山村までの多様な地域施設の計画と設計の横断的な研究を進展させることが重要であるとの認識のもとで、小委員会を設置し、全国的な地域施設の研究者と設計者が研究発表と交流活動を行い、社会へ情報発信することを目的としている。

■2010-2012年度の主な活動

各種建物、地域、都市等の施設計画に関する全国の研究者・実務者が、研究発表と交流活動を行い、地域施設の計画研究と設計の深化を図るため、各年度7月に2日間にわたる地域施設計画研究シンポジウムを開催した。その際、論文募集、論文概要の審査、論文の審査、再文審査等の過程を経て、地域施設計画研究を編集・発行した。2010年度からは、新たな企画として、各年度1日目の午後にPD「コンパクトシティと地域施設（Part1～3）」を開催し、人口減少社会、少子高齢社会における地域施設の課題、あり方を討議した。

〈開催日、発表論文数〉

○2010年度 第28回地域施設計画研究シンポジウム

7月15・16日 地域施設計画研究28(21編)

○2011年度 第29回地域施設計画研究シンポジウム

7月14・15日 地域施設計画研究29(43編)

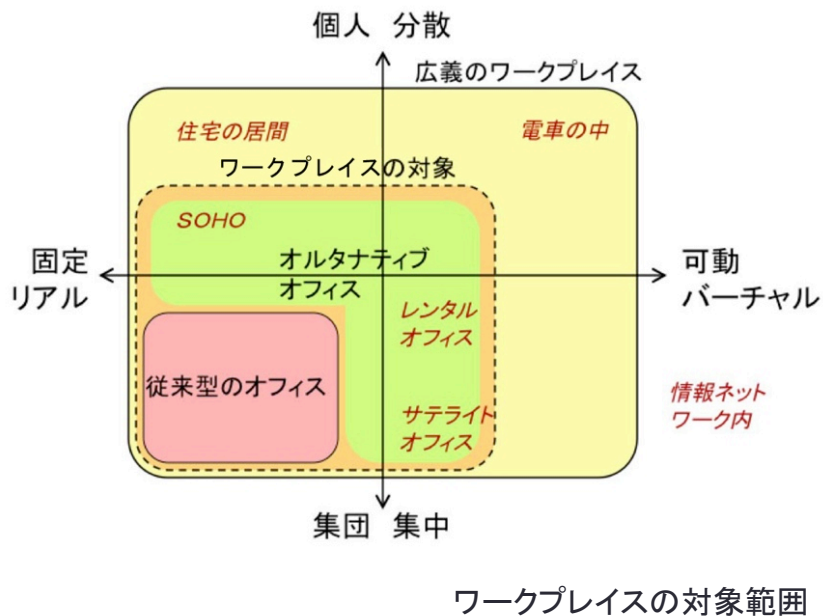
○2012年度 第30回地域施設計画研究シンポジウム

7月19・20日 地域施設計画研究30(41編)

ワークプレイス小委員会

■設置目的

人々の働き方や働く場所が多様化する社会状況に対応して、オフィス・ビル(建築)にとどまらず様々な業態の働く場としての「ワークプレイス」のあり方を提案する目的で研究活動と研究交流を行う。



■2010-2012年度の主な活動

- ・ワークプレイスに関する知見を深めるため、各委員の立場(視座)から研究報告を行い、小冊子にまとめる方向で活動した。
- ・以上のワークプレイスに関する研究活動から得られた知見を、「ワークプレイス・デザイン連続ゼミナール」として開示し、参加者と共に知見を深化させていく予定(以下1~4回の予定題目)。

第1回:「フリーアドレス再考」

第2回:「外で働く~企業の場合」

第3回:「働く場のシェアリング~インデペン
デント・コントラクターの場合」

第4回:「ワークスタイル再考」

福祉施設小委員会

■ 設置目的

- 1) 福祉施設の現状の課題解明と新しい展開の検討
- 2) 施設環境づくりに関する実践的研究とその普及
- 3) 委員会における上記の研究活動成果の出版

■ 組織

- ・福祉施設のあり方研究WG : 15名
- ・こども施設WG : 10名
- ・環境と福祉の実践研究WG : 15名

委員会は年4回程度開催
WGは必要に応じ開催

■ 2010-2012年度の主な活動

1) 出版

- ・「認知症ケア環境事典(韓国版)」(2011年4月)刊行
- ・「空家・空きビルの福祉転用 ~ 地域資源のコンバージョン」(学芸出版社 2012年9月)刊行 ほか

2) 公開研究会

- ・「障がい者の地域生活の質を支える最近の施設見学会」(2012年12月1日~2日):大阪
- ・「日本-台湾 高齢者ケア環境づくりセミナー」(2011年8月11日) ほか

3) 見学会

- ・「富山型福祉サービス見聞」(2010年9月8日)
- ・「南医療生協(名古屋)の取り組み」(2012年9月11日) ほか

空き家・空きビルの
福祉転用



文化施設小委員会

■設置目的

- 1) 公共文化施設の計画、設計、運営などの文化施設の整備、利活用全般に関する調査研究
- 2) 文化施設及び文化施設を取り巻く環境に関わる諸課題について、知見の共有と成果の公開

■組織

文化施設小委員会の傘下には劇場・ホールWGとミュージアムWGを設置し、より専門的な諸課題を扱いながら、一体的な活動を行っている。

委員会は毎年6回程度開催し、WGは必要に応じ開催

■2010-2012年度の主な活動

1) 出版

「劇場空間の誘い」(鹿島出版会 2010年10月)刊行

2) 研究会

2010年度建築学会大会PD(2010年9月)「創造都市時代における新しい公共空間の可能性」(2010年9月)

公開シンポジウム

「縮退化社会における公共ホールの実態調査と将来的なビジョンの構築」(2013年3月)

3) 見学会

大船渡リアスホール* (2009年10月) 京都芸術センター他** (2011年2月) 由利本荘市文化交流館* (2012年8月) 東京芸術劇場改修(2013年2月) 他
* 建築学会東北支部建築計画部会共催
** 建築学会教育施設小委員会共催



計画基礎運営委員会

安全計画小委員会

建築人間工学小委員会

空間研究小委員会

環境行動研究小委員会

ユーザー・オリエンテッド・デザイン小委員会

設計方法小委員会

情報設計小委員会

安全計画小委員会

■ 建築防災計画の再考(2010～2011年度)

- 防災計画評定制度の廃止と防火避難の性能規定化が建築計画に及ぼした影響を分析、安全計画上のリスクを検討
- 第21回安全計画シンポジウム「避難階段の配置と避難経路の安全計画」の開催
 - ・2012年3月5日実施, 参加者数:39名

第21回安全計画シンポジウム	
「避難階段の配置と避難経路の安全計画」	
2012年3月5日(月) 14:00～17:00 建築学会 会議室	
司会: 山本昌和(鉄道総合技術研究所) 記録: 吉野攝津子(大林組)	
プログラム	
1. 主旨説明	林広明(大成建設, 安全計画小委員会主宰)
2. 主題解説	
1) 階段配置の典型例と安全計画上のリスク	土屋 伸一(明野設備研究所)
2) 階段配置に係わる国内及び海外の基準	萩原 一郎(建築研究所)
3) 避難シミュレーションを活用した階段配置の評価	佐野 友紀(早稲田大学)
4) 避難施設計画のチェックポイント	水落 秀木(清水建設)
3. 質疑・討論	
主催: (社)日本建築学会 建築計画委員会 計画基礎運営委員会 安全計画小委員会 〒1108-0014 東京都港区芝5-26-20 TEL:03-3456-2051	

■ 建築物の全館避難に対する安全計画(2012年度～)

- 各種災害の階段移動にまつわる課題の抽出
- 火災時の全館避難及び震災時の津波避難ビルの階上移動のあり方を、建築計画(ハード)や誘導方法(ソフト)を含めて検討
- 委員会開催回数:6回

建築人間工学小委員会

■設置目的 建築空間・設備機器・家具の安全性や快適性の実現に必要な人間工学関連の知見を蓄積、更新し、研究会や書評会を通じてこれらを供給者ならびに生活者に提供することを目的とする。



研究会

- 第53回研究会 「ヒトを観察し、デザインに活かす」 2011年3月4日 (50名)
- 第54回研究会 「街の中で発見・体験できる人間工学」 2011年3月7日 (49名)
- 第55回研究会 「大型商業空間におけるユニバーサルデザイン導入の試みと到達点」 2012年3月6日 (31名)
- 第56回研究会 「KINECTをつかった動作計測ワークショップ」 2012年6月29日 (34名)
- 第57回研究会 「人の流れと環境のデザイン」 2012年11月24日 (42名) (全5回開催)

書評会

- 第1回書評会 「看護動作を助ける基礎人間工学」 2012年3月4日
- 第7回書評会 「火事場のサイエンス」 2012年12月12日
- 第11回書評会 「吉武泰水山脈の人々」 2013年2月27日 (全11回開催)

※すべての書評会は <http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s23/> で公開されています。

空間研究小委員会

建築・都市空間に関わる研究における多様な調査・分析方法を取り上げ有効性や可能性を検討

1. 公開研究会の開催(6回)

[第70回]2010年06月12日、四川大地震からの復興—都市から建築へ—(44名参加)

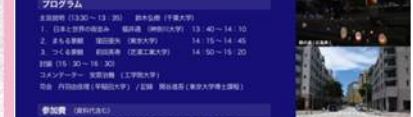
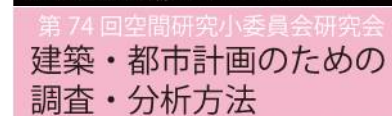
[第71回]2010年10月16日、ランドスケープ×建築=? その空間とは(132名参加)

[第72回]2011年03月08日、空間から考えるまもる景観・つくる景観
—21世紀の景観と都市空間—(33名参加)

[第73回]2011年10月14日、「ロボットとくらす」空間とは?(25名参加)

[第74回]2012年06月01日、建築・都市計画のための調査・分析方法(100名参加)

[第75回]2012年10月06日、住みつぐまちの姿としくみ—中山間地域の居住持続性
(22名参加)



2. ミニ研究会の開催(3回)

若手研究者による研究発表会を、委員会開催にあわせて実施

- ・稲坂晃義「都市商業集積の詳細時空間データを用いた時系列分析手法の提案」
- ・米澤隆「避難所における空間の変容」
- ・畠山雄豪「積雪寒冷地における都市景観の視覚的様相に関する研究」

3. 出版

『建築・都市計画のための調査・分析方法』

改訂版、2012年5月刊行



環境行動研究小委員会

【目的】環境行動研究的視点から、実際に体験される環境・場所の質を分析・評価するための理論構築を行うとともに、人と環境との豊かな関係を紡ぎ出す環境・場所の創出・維持を目指す。

■国際学会でのシンポジウム

□EDRA (Environmental Design Research Association)において小委員会応募のシンポジウムを開催した。

- 「Human Interaction, Design, and Use of Space in a Densely Populated Culture」(2011年5月)
- 「IBASHO: Emerging Placemaking by Citizens in Japan」(2012年6月)
- 「Safe and Restorative Placemaking: Before and After Measures for Disaster Mitigation」(2012年6月)



EDRAシンポジウム

■出版

□『まちの居場所— まちの居場所をみつける／つくる』(東洋書店, 2010年)を刊行。2012年重版。

■公開研究会

□「制度を超えて子どもを支援する居場所」(2011年11月12日、12名参加)

□H・ヘフト博士講演会「ギブソンとバーカーのアプローチの統合」(2012年10月15日、60名参加)

□H・ヘフト博士講演会「状況に埋め込まれた行為と生態心理学の起源」(2012年10月17日、50名参加)

■環境行動研究に関する基本図書・文献リストの作成

■活動成果のウェブサイトへの掲載、情報発信・提供



ユーザー・オリエンティッド・デザイン小委員会

2010-2011年度 ノーマライゼーション環境小委員会

2012年4月 上記小委員会の活動成果を引き継ぎ、本小委員会を設置

■委員会開催 14回

■公開研究会開催 5回

2010年7月24日 「Safe Community 活動からみたこれからのまちづくり」

2011年2月19日 「障害をもつ学生等の大学生活環境」

2011年7月 9日 「真の住宅セーフティネットを考える」

2012年2月18日 「障害者や高齢者の住生活を支える「移動の質」について」

2013年3月 9日 「ユーザーの視点に立つとはどのようなことか

— 重度重複障害のある人の生活の場を計画する —」

■見学会

2010年全国大会時 「富山型」福祉サービス(福祉施設小委員会と合同)

2011年全国大会時 「練馬区の福祉のまちづくりの現状」

「川越市における医療施設」

「過疎地域の移動の現状と問題点」

2012年全国大会時 「ケアホーム「パストラルいぶき」」(※右写真参照)

■今後に向けて取り組んでいる現在の活動

- ・出版企画「ユーザーのニーズを反映した建築計画・デザインを生み出す手法」の検討
- ・前項に係る出版WG設置の検討 ※2013年度より設置決定
- ・研究会企画の検討 ※2013年6月頃に開催予定



設計方法小委員会

- ■「関係性のデザイン」に関する事例収集・調査研究活動
- ・ワークプレイス、明石小保存運動、日本設計での活動、多賀城のまちづくりNPO、東日本大震災を受けた対応等
- ・「関係性のデザインマップ」モデル化、支援ソフトについて検討
- ■設計方法研究の新しい展開を探る
- ・生態学的アプローチについて講師を招いて議論
- ・住宅設計のプロセス研究事例
- ■デザイン研究関連他学会との連携「Designシンポジウム」
- 日本機械学会、日本設計工学会、精密工学会、日本設計工学会、日本デザイン学会、人工知能学会と共催
- ・Designシンポジウム2010(2010年11月25,26日)
- ・Designシンポジウム2012(2012年10月16,17日、京都大学 写真参照)
- 日本建築学会が幹事学会。当小委員会が中心となり企画、運営
- ■これまでの成果の普及展開「設計方法の教科書」について検討



情報設計小委員会

- ・空間設計を情動的側面から考える
- ・情報から見た設計、設計から見た情報を考える
- ・空間と情報の両者を、設計を軸に研究する
- ・建築環境設計に関わる新しい情報・構造変革を捉えて対応を考える

28回の委員会・研究会・シンポジウム・見学会等の開催

1. (情報設計シンポジウム)35名 (日本芸術文化資料)
2. (出版のための取材)10名 (広島・皆生・境港・出雲)
3. (出版のための取材) 7名 (越後妻有ビエンナーレ)
4. (見学会)34名 (議事堂の建築インテリア、憲政記念館等)
5. (ラウンドテーブル)平均11名 (委員およびゲスト)
6. (出版記念シンポジウム)35名 (『行く 見る 測る 考える 建築設計 一発見・発想・試行のフィールドとデザイン』)

構法計画運営委員会

オープンビルディング小委員会

各部構法小委員会

木造建築構法小委員会

構法計画運営委員会 2010—2012年度活動報告

当運営委員会は、傘下の3小委員会(各部構法設計小委員会、木造建築構法小委員会、オープンビルディング小委員会)を対象とした構法関連研究の情報交換を通じて、俯瞰的・長期的視点に立った研究の体系化に関する議論を重ねることを目的に活動を行っている。

■活動内容

○構法関連博士論文講演会

- ・小泉雅生(首都大学東京)「ハウジング・フィジックス・デザインに関する研究」
- ・飯田恭一(オフィスK代表)「建物の耐用年数を決める要因とそれを延伸する手段の研究」
- ・門脇耕三(首都大学東京)「集合住宅の構法に規定される住戸計画の自由度に関する研究」
- ・権藤智之(芝浦工業大学)「技術採用者の視点に着目した木造軸組構法の変遷に関する研究」
- ・山下光博(建築保全センター)「工科大学の戦略的な施設投資のための基礎的研究」
- ・佐藤利昭(東京理科大学)「接触問題を考慮した木材の破壊条件の評価—スギ材を用いた材料試験と個別要素法による数値実験」
- ・西郷徹也「サステナブル社会における地域住宅産業の事業形態に関する研究」

○講演会「テーマ:先達からの教え」

- ・大野隆司先生
- ・澤田誠二先生
- ・真鍋恒博先生
- ・深尾精一先生

■成果と課題

各々の発表に対して、幅広い専門分野から様々な議論がなされた。

特にミニ講演会については、今後も継続的に続けていく予定であるが、それ自身が貴重な研究資源であることから、関係者で共有・利用できるようアーカイブ化していくことが望ましく、その具体的方法等の議論を含め、今後の課題としたい。

オープンビルディング小委員会

■設置目的

- ・本小委員会では、①レベル概念を用いたストック活用技術の開発・実践、②アーバンティッシュの概念整理とその更新手法、③ストックの高度活用を支える構法・産業・制度のあり方の検討、④長期利用が可能な集合住宅の計画技術、⑤住宅におけるカスタマイゼーション手法の体系化、などに取り組む。
- ・同時に、傘下の「CIBW104対応ワーキンググループ」は、CIB W104 (Open Building Implementation) の日本窓口として、オープンビルディングに関する研究・実績・教育の普及活動を行う。10,11,12年度世界大会に委員より運営／報告に参加。

■2010-2012年度の主な活動

- ・10年度：10/83つのWG報告,2/23海外での調査研究活動の報告/深尾精一
- ・11年度：4/20公共施設のオープンビルディング的利用計画に関する報告、10/31ニュータウン再生に関する研究の報告、2/17堀川団地の見学/再生に関する研究の報告
- ・12年度：5/22構法計画運営委員会傘下3小委員会合同学位論文発表会、6/13「工業化、メタボリズム、フレキシビリティからオープンビルディングへ」/澤田誠二、7/13「手法の体系化」と「構法の変遷史」研究/真鍋恒博、8/7工業化住宅の増改築、模様替えの制度的課題の整理、10/10長期優良住宅として認定を受けた集合住宅の事例分析

■成果

- ・SI技術の開発・実践WG：レベル概念を用いたストック活用技術の開発・実践に向けた情報交換と議論が交わされた。
- ・アーバンティッシュの更新手法WG：アーバンティッシュの概念整理(右表)と更新手法の検討に向けた情報交換と議論が交わされた。
- ・ストック時代の構法・産業・制度WG：ストックの高度活用を支える構法・産業・制度のあり方について情報交換と議論が交わされた。

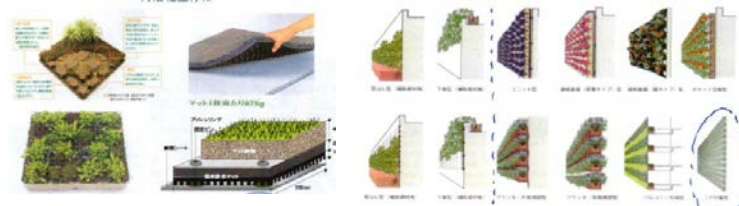
各部構法小委員会

目的

1. 改修構法の実態把握

■各部構法ミニ講演会(2010.5.13・2012.9.7)

①「屋上緑化工法の変遷」(NPO法人屋上開発研究会:松本様)



②「リノベーション事例の報告(アップルストア銀座・三越銀座店)」
(鹿島建設建築設計本部・坂本様)



活動

■改修事例の収集・分析

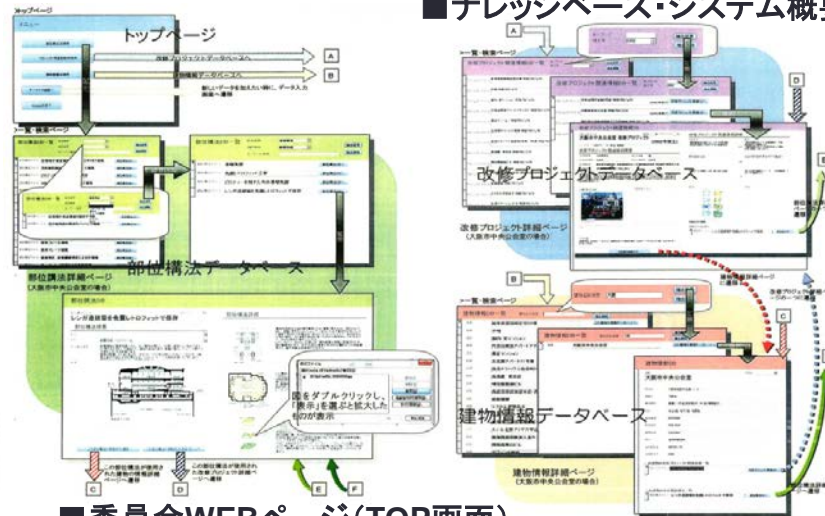


成果

1. 1990年代以降の改修構法の資料収集を行い、整理・分析
2. 上記の分析を通じて、有効となる「参加型ナレッジベース」のあり方を検討
3. 以上の成果を最終報告書として作成

2. 「参加型ナレッジベース」の構築

■ナレッジベース・システム概要



■委員会WEBページ(TOP画面)



1. 各部構法小委員会のWEBページの構築
<https://sites.google.com/site/kakubukouhou/home>
2. 2012年日本建築学会(中部)における構法計画系の発表概要をまとめ、上記WEBページに公開
3. 改修構法データベースの試験運用WEBページを開設し(IP:133.78.205.80)、今後の課題を抽出

木造建築構法小委員会

木造建築を、過去から現在につながる歴史性を有し、かつ持続可能な社会を支えるエコロジカルな建築と認識し、災害復旧住宅を含めた現状認識を行い、今後の方向性を見いだしていくことを目的としている。



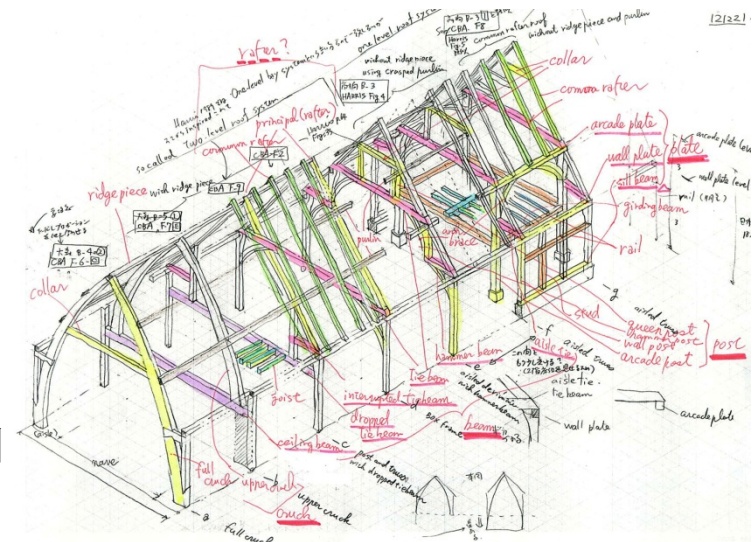
岐阜県飛騨市種蔵集落の民家と板倉

■ 主な小委員会活動

2010年度: 研究会「厚物合板の開発経緯とその仕様に関する報告」、「伝統木造用語WGの中間成果報告」

2011年度: 研究会「岐阜県飛騨市種蔵集落における伝統木造構法の報告」、「地域材による学校づくりの課題」、「近世の民家と農村」

2012年度: 研究会「伝統木造用語WGの中間成果報告」、「木造軸組構法の変遷を概観する研究成果報告」、「福島県における木造仮設住宅に関する報告」、「東南アジア等の木造・茅葺き建物」に関する報告、見学会:登録文化財の村川家住宅



イギリスの架構類型と用語

■ 成果

(1) **研究会・見学会** 伝統的な構法にある知恵を探り、また海外における木造建築の情報収集を含めて、持続可能な社会を支える現代の木造建築構法のあり方を探るための知見を得ることができた。

(2) **伝統木造用語WG** 日本国内の民家の構造部材名称の多様性を明らかにするとともに、識者へのヒアリングを行い、標準的な語彙の試案を作成した。また日本とイギリスの伝統木造架構を類型化し、それらを比較することで、日英の構造部材用語の対応を検討した。

設計計画運営委員会

公共施設マネジメント小委員会

建築計画技術小委員会

建築設計計画評価小委員会

公共施設マネジメント小委員会

■ 設置目的

人口減少時代における公共施設再編の諸問題を、高水準・高質かつ持続的な公共施設整備のチャンスとしてとらえ、機能／空間／配置という建築計画の基本から総合的に検討する。

■ 2010-2012年度の主な活動

2011年度大会オーガナイズドセッション

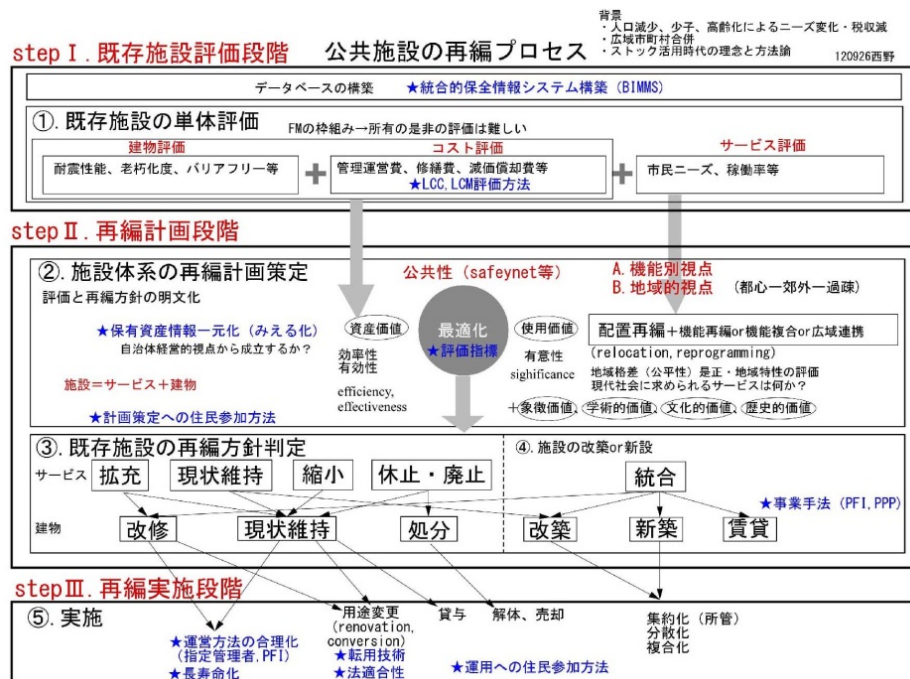
- ・「公共建築をめぐる課題と再編手法」
- ・「公共性の再考と施設利活用方法」

シンポジウム・見学会

- ・ストックとしての公共住宅の現状と今後のマネジメントの方向性
- ・地方公共団体における施設マネジメントの推移と今後の可能性
- ・秦野市公共施設再編・再配置に関する視察見学会

出版計画

- ・「(仮)公共建築の再編」を準備、具体的なコンテンツを精査



建築計画技術小委員会

■設置目的

環境共生、都市再生、ユニバーサルデザイン等の新しいニーズに対応した設計計画の実践、社会的制度、高度な実務教育の推進などへの要請に応えるため、以下の課題に取り組む。

- ①建築計画の学理体系、設計計画の方法・知識を整備する。
- ②建築計画と社会システム(建築基準法・都市計画法・景観法・建築士法等の法制度、性能等の基準・標準)との関係について提言する。
- ③研究と実践をリンクする様々なツールや仕組みを探求する。

■2010-2012年度の主な活動

建築計画技術の体系化、計画研究と実践のリンク等をはかるため、委員が関わった計画事例の発表をふまえて、建築計画の新たな役割や今後の展開について徹底討論した。

1. コミュニティ・ガバナンスに基づく都市景観の計画技術(2010年7月 門内委員)
2. アメリカの病院と計画研究(2012年1月 岡本委員)
3. 遠野市の仮設住宅(2012年2月 大月委員)
4. 配置の研究と計画技術(2012年3月 岸本委員)
5. 都市解析と集落・スラムの調査(2012年11月 本間委員)
6. 仮設住宅確認調査(2012年11月 千葉委員)

【参考】2008-2009年度の発表事例

さくらホールほか(2008年10月 野口委員)／プログラミング、PFIなど(2008年10月 加藤委員)／求道学舎と求道会館(2009年6月 近角委員)／住宅地の計画をめぐって(2009年9月 大月委員)／安全・安心の計画、コンバージョンの実践など(2009年11月 吉村委員)

建築設計計画評価小委員会

■ 設置目的

現代建築作品を通して有効な設計方法論を求め、新しい計画学の枠組みを構築する。

現代建築作品・プロジェクトを建築計画学から評価する可能性を探り、様々な評価軸・評価基準と評価方法を検討し、試行する。



■ 2010-2012年度の主な活動

- ・建築家の自邸の見学会を計11回実施し、各会毎に計画学の視点の評価について議論した。
- ・上記議論を受け、現代建築作品・プロジェクトを建築計画学から評価する可能性を探るため、様々な評価軸・評価基準と評価方法を検討した。
- ・上記の内容を(仮称)「建築家の自邸」として内容をまとめ、出版企画が進行している。出版に向け、短評および対談(4回)の原稿の精査、図版の収集を行った。
- ・学会賞、学会建築作品選集などの規定評価基準の検討を行った。
- ・2012年度は委員数13名で活動している。